

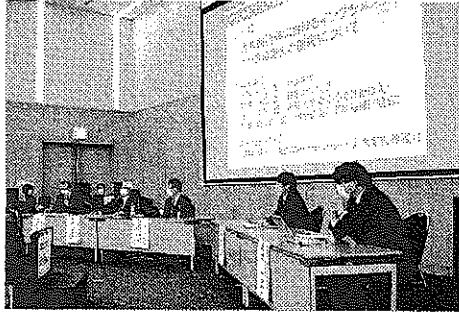
インフラメンテ国民会議九州フォーラム

# 自治体の課題議論

インフラメンテ国民会議九州フォーラム(リーダー・日野伸一九大名誉教授)

は12日、福岡市の福岡国際会議場で第7回ピッチイベントを開いた。写真。「市町村長が考えるこれからのインフラメンテナンス」をテーマに、講演やパネルディスカッションを通して、自治体が抱える課題や関係団体との連携などについて意見交換した。会場約200人、オンライン約500人が参加した。

ピッチイベントは、第1部で、国土交通省総合政策局の廣瀬健二郎公共事業企画調整課事業総括調整官がインフラ



メンテナンスの取り組みの現状を、インフラメンテナンス市区町村長会議九州・沖縄ブロック幹事の太西一史熊本市長、同企画委員の金子健次柳川市長と小松政武雄市長が各自治体のインフラメンテナンスの課題と展望を語った。

第2部は、日野リーダーをファシリテーターに、大西市長、岩城一郎日大教授、道守九州会議の玉川孝道副代表世話人、廣瀬事業総括調整官の4氏を交え、「地方自治体におけるインフラメンテナンスの新たな展開」をテーマにパネルディスカッションした。ディスカッションでは、こ

とし4月に設立した「インフラメンテナンス市区町村会議」の狙いとなる予防保全への本格転換や新技術の活用といった自治体における効率的・効果的なインフラメンテナンスの実現に向けて、自治体の実態と課題、支援の在り方、市民参加の取り組み事例などを共有した。廣瀬氏は、インフラメンテナンスにかける財政や人材の

不足といった自治体の悩みを挙げ、「複数の自治体で技術者を共有して発注するなど、1自治体で解決できる問題ではなく、みんなで取り組む必要がある」と述べた。

岩城氏は「市民のインフラへの関心の薄さを変えることが大事」と指摘。東北地方で実施している住民参加の橋の

清掃活動「橋の歯磨きプロジェクト」の事例を紹介し、「歯磨き」に例えて日ごろの予防保全の重要性を語った。大西市長は、岩城氏の話を受けて「虫歯になって歯を磨いても遅い。九州のインフラの老朽化の度合いを見える化し、市民と危機感を共有する必要がある」と述べた。